

週報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

since 1964

2026 年度年間聖句

「主は人の一步一步を定め
御旨にかなう道を備えてくださる。」
(詩編 37 編 23 節)



どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半
子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時 ~10 時
祈 禱 会 各水曜日
○昼の聖書研究祈禱会
(第3・午後2時)
●夕の祈禱会
(第2、第4・午後7時)

牧 師 井 殿 準

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65
TEL. 042-742-1593
FAX. 042-742-1393
ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>
郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計
00290-4-80707

3213 2026 年 6 月 7 日

礼拝式順序

(聖霊降臨節第3主日)

司 式 者 井 殿 準
奏 楽 者 岡 野 和 美

前 奏		奏 楽 者
招 詞	詩編 113:1b~3	司 式 者
讚 美 歌	363 「み神の力は」	一 同
聖 書	使徒言行録 4:13~31 (新 P. 219)	司 式 者
使徒信条	(93-4-A)	一 同
祈 禱		司 式 者
讚 美 歌	508 「救い主イエスこそは」	一 同
説 教	「神の御心のために」	司 式 者
祈 禱		”
讚 美 歌	516 「主の招く声が」	一 同
聖 餐 式		司 式 井 殿 牧 師
讚 美 歌	76 「今こそ歌いて」 (1,4,5 節)	一 同
献 金		”
主の祈り	(93-5-A)	”
頌 栄	29 「天のみ民も」	”
祝 禱		司 式 者
答 唱	40-6 「アーメン」	一 同
	~ 「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう~	
報 告		司 式 者
讚 美 歌	92 「主よ、わたしたちの主よ」	一 同

- ・当教会では讚美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。

先週の説教要旨

「神との絆は深い」

(ローマ 8:12~17)

我々はキリストの犠牲によって神の子とされている。我々は神の御心のままに生きることがなかなかできないが、聖霊が神の子として相応しく生きることへと導いてくれるとパウロは告げる (15 節)。

また、パウロは「この霊によってわたしたちは、『アッバ、父よ』と呼ぶのです」とも告げている (15 節)。情けないことに、人は神の言いつけを守って生きることができず、神を悲しませることばかりしてしまう。神は、我々が神と対等に契約を結んで歩むことができない存在であるが故に、キリストの出来事を通して、我々との関係を「親と子」の関係にしてくださった。では、親と子の関係になると、どうなると言うのか？

「放蕩息子のたとえ」(ルカ 15 章)に登場する父親は、自分の財産を食いつぶしてしまった息子の罪を無条件で赦して息子を受け入れ、「いなくなっていた息子が帰って来た」と大いに喜んでいいる。神はそれほどに我々を愛してくださっていると譬えは告げているが、我々は、神の子とされて、「放蕩息子」と同じように神に愛していただく者とされているのだ。

子どもから全信頼を寄せられながら、「パパ!」「ママ!」と胸に飛び込んで来られたら、親としてはこんなに嬉しいことはない。その子を育てることがどんなに大変なことであっても、どんなにその子がわがままであっても、親は無上の喜びを感じる。それと同じように、神は、我々が全信頼を寄せて「神さま!」とその胸に飛び込んで行くことを、何よりも喜んでくださるに違いない。我々がどんなに愚かな行いをして醜い姿をさらしたとしても、神は我々のことを愛し続け、我々が帰って来るのを待っていてくださるのだ。

「アッバ、父よ」と神のもとに帰ることが赦されていること、その我々を神は決して突き放したりせず、いつも大きく手を広げて、我々を待っていてくださること、そして「息子よ」「娘よ」と呼んで、我々をのことを「相続人」として (17 節)、御国の世継ぎとしてくださるとは、なんと素晴らしい恵みだろうか。この恵みを日々噛み締めながら、我々はいよいよ喜んで御心を行うことへと押し出されて行こう。